

北海道札幌郡広島町方言のアスペクト

江端 義夫

I. はじめに

- (1) 調査対象地：広島町は、北海道石狩平野の西南部に位置し、北は江別市、西北は札幌市、東は南幌町、長沼町と南は恵庭市と接し、道央ベルト地帯における産業、流通運輸の拠点である。

明治27年に、月寒村から分離して広島村が成立した。昭和43年に広島町となり、昭和63年3月31日現在、42437人のマンモス人口を擁する。

広島町は、かつて稲作農業が主産業であった。今は、札幌市へ通勤する人々の居住地域となっており、近郊農業地域へと変わった。町内には、四つの居住ブロックがあり、それらの間に広大なゴルフ場や公園、レクリエーション林などが点在する快適なベッドタウンである。それゆえ、他の地域から広島町に移り住む人が多い。平成6年10月の人口は、すでに5万人を越したということである。

- (2) 調査年月日時： 1994年10月6日（木）
午前9時45分～午後0時30分
- (3) 話者： 前川トメ 明治42年3月26日生（85歳）農業、商業、無職
遠藤龍敏 昭和20年5月15日生（49歳）公務員
- (4) 調査者・調査場所：江端義夫、前川トメさん宅
- (5) 調査方法・調査時の状況：調査票に基づいて質問調査を行った。同時に自然な会話を展開して、不十分ながらも、当該項目の用例を確認することに努めた。
- (6) 表記方法：用例は片仮名で表し、アクセントの山に傍線を引いた。（ ）は話者自身の説明のことばを、口言葉をなぞるように、記述したものである。また < > の記号は、調査者の気づきや説明を記したもので、< 提示 > は語形を調査者が提示した目印である。また、< 熟考後 > とあるのは、質問後に話者の解答が返ってくる迄に少しの間があったことを、殊更に書き出したものである。句点は、語句が文次元のこととして発せられたと理解された場合に付している。

II. 調査結果

1. (昔は)よく行ったものだね ①イッタ ヨネ。(女の言い方) / ②イッタ ヨナ。(男の言い方)
2. (あのころは)おもしろかったなあ。 オモシロカッタ ネー。
3. (もうちょっとで)落ちるところだった ①ブジデ ホット シタ。(無事ではなかった。) / ②オチル トゴダッタ ネ。 < 提示 > / ③(「オチヨッタ」 < 提示 > は使わないが、土地で聞いたことがある。)
4. (今にも)落ちそうだよ オチル ヨ。(「オチソーダ」の方が正しいようだけ

- れど、「～ソーダ」は使わない。)
5. (財布を) 落として オトシチャッタ ネー。(これは子供の頃のことばだ。)
6. 困っている ①コマツタ。(大人の普通のことば。)/②コマツチャッタ。(子供っぽいことば。)/③(「～テイル」「～テル」<提示>は使わない。)
7. (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ ①ローソクノ ヒ キエル ヨ。(蠟燭の火が消えそうだよ。)/②キエチャウ ヨ。(消えてしまうよ。)<「消えそうだ」><提示>は日常会話では、やはり稀なようだ。>
8. (今) 消えようとする ①(そういうときは、ことばにならないで、蠟燭の火を手で囲むよね。)笑 /②(敢えてことばに出すとすれば)アー、キエル、キエル、キエルトワ ユー。(ああ、消える消える消えるとは言う。)
9. (完全に) 消えた ①キエチャッタ ヨ。/②キエタ ヨ。(これらの言い方のどちらかを言う。)
10. (すでに) 消えていたよ ①イツノ マニカ キエテタ ヨ。(いつの間にか消えていたよ。)/②キエチャツテタ ヨ。(消えてしまったよ。)(②の方が適当しますね。)/③キエチャッタ ヨ。(瞬間のときも、その後のときにも「～チャッタ」を使う。)
11. (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた <熟考後>ローソクノ ヒガ キエダシタ ヨ。(蠟燭の火が消え始めたよ。)<「～ダシタ」はよく使うようである。>
12. (何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ <熟考後>①(「キエヨル」<提示>は聞くことはあるが、言わない。)/②ジュンバンニ キエテイク ネー。(順番に消えていくなあ。)
13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ <熟考後>①(「キエチヨル」<提示>は言わない。広島県のことばだ。)/②キエテイク
14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ ①キエチャッタ ヨー。/②(「キエトル」<提示>は言わない。)/③ミンナ キエタ ヨ。(多)
15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ <熟考後>①ケシダシタ。<不安気な表情>/②ヨク キョーカイニ イクト ツギツギト コーネ、ケシテ イマス モンネ。(よく教会に行くと次々と、こうね、消していますものね。)/③ナンカ コーユー モノニ コー カネガ ツイテ テガ ツイテテ ヒトツズツ コー ヤツテ オサエテ ケシテ イキマス ネ。(何かこういう物に、こう金物が付いていて、宣教師が一つずつこうやって抑えて、消して行きますよね。)
16. (もう全部) 消しているか ①ケシチャッタ カ。(男ことば)/②ケシタ カ。/③(「ケシテアル」<提示>は言わない。)
17. (今にも桜が) 散りそうだ <熟考後>①ヒトヒラ フタヒラ チツテ クルノデ ネ、ハヤク ミニ オイデ グライノ モンダ ネ。ワタシダツタラ。(一枚、

二枚散ってくるのでね、早く見においで、ぐらいのものだね。私だったら。) / ②チ
ツテ キタ ネ。(散ってきたね。) <「散りそうだ」の言い方を提示したのだが、
あまり慣じないと答えた。>

18. (ちらほらと) 散り始めた ①チリダシタ。(多) / ②チツテ キタ ネ。 / ③
(「チリソメタ」<提示>は言わない。)

19. (今現に) 散っている ①ヤー、チツテ キタ ネー。 / ②アラ、チツテ キ
タ ヨー。(あら、散ってきたよ。) / ③(「チリヨル」<提示>は言わない。現在
進行は、「アラ」とか「ヤー」とかを付けるくらい。)

20. (桜の木がすっかり) 散っている <熟考後>①(「チツテシモートル」<提示
>は、聞くが言わない。) / ②サクラガ チツテ シマツタ ネ。 / ③ミンナ チッ
テシマツタ ネ。(「チツテ シマツテル」<提示>ではなくて、③のように「チッ
シマツタ」の方を使う。)

21. (地面一面に) 散っている ①ヤー、チツテ シマツタ ネ。(男ことば) / ②
アラ、チツテ シマツタ ヨ。(あら、散ってしまったよ。)(女ことば)

22. 今にも降りそうだ <熟考後>イマニモ フリソーダ。<提示>

23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ フリソーダッタ。<提示>

24. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ アノ トキワ アメ フツタデシ
ヨー。(あの時には、もう雨が降っていたでしょう?) <断定の場面でも、控えめに
推定で表現しようとする。>

25. (あの時はやがて夜が) 明けようとしていたよ <熟考後>アケソーダッタ。

26. (来年の今ごろは家を) 建てている(最中) タテテルカラ

27. (来年の今ごろは家をすでに) 建てている ①イマ シンチクシタカラ アソビ
ニ イラシテ クダサイ。(今新築したから、遊びにいらしてください。)/ ②(「
タテテシマツテイル」<提示>は聞いておかしくないけれども、使わない。)/ ③ラ
イネンノ イマゴロワ イエガ タツテルカラ アソビニ キテクレ。(来年の今ご
ろは家が建ってるから遊びに来てくれ。)/ ④ライネンノ イマゴロワ アタラシク
イエガ テキテルカラ アソビニ キテクレ。(来年の今ごろは新しく家が出来て
いるから遊びに来てくれ。)<「家が」であって「家を」ではないようである。>

28. (あの家はよく) 磨いてある (トコバシラ ハジメカラ ビカビカデ タツテ
ルカラ ネ。イエオ ミガクツティ ユー カンカク ナイカラ ネー。床柱は初め
からびかびかで建ってるから、ね。家を磨くって感覚が無いからね。)<質問文
が土地の風土に合わなくて適当な解答が得られない。「ビカビカデ タツテル」の語
句から推してみれば、「ミガイテル」となるのであろうか。>

29. (隣の犬が) 鳴いている ①ホエテル(吠えている) / ②ヤー、マタ トナリノ

- イヌガ ホエテル ヨ。(やあ、また隣の犬が吠えてるよ。)(うるさいから、鳴いていると言わないで「ホエテル」と言う。)
30. (隣の子が)泣いている ①アカチャンノ コエガ キコエル ヨ。(赤ちゃんの音が聞こえるよ。)/②ナイテル(泣いてる)
31. (こどもたちが)喧嘩している マタ ケンカシテル ヨ。(また、喧嘩しているよ。)
32. (家に)いるかなあ イルカ ナー。
33. (〇〇さん)いるか ①(玄関の戸だけを開いて)イルー。(居る?)/②ダレダレサン イルー。(誰々さん、居る?)/③(「オル」<提示>は言わない。)
34. (ああ)いるよ ①イル ヨー。(居るよ。)/②(「イタ ヨ」<提示>は言わない。)
35. (そういう人も)いるよ ソー ユ シトモ イタ ヨネ。(そういう人も居たよね。)
36. (あなたは今何を)していたか シテタ ノ。(していたの?)
37. (私は今金魚を)見ていたよ ミテタ ノヨ。(見ていたのよ。)
38. (金魚が今にも)死にそうだ ①シニソーダ(死にそうだ)/②(「シニヨル」<提示>は使わない。)
39. (やっぱり金魚は)死んでいたよ ①シンデタ(死んでいた)/②キンギョ シンダ ワ。(金魚死んでいたよ。)(男のことば)<過去の状態も過去で表す。>
40. 読み始めていた ヨミカケテ イタ(読み始めていた)
41. 読み始めていた ヨミハジメタ(読み始めていた)
42. 読み始めたところへ(～た) ヨミハジメタトコロ
43. 着くと同時に～した ①ツイタ トタンニ(着いたとたんに)(しかし、「ツイタ トタンニ電話してくれ」のように相手に何かを要求する言い方には使えない。)
②ツイタラ デンワシテ クレ。(着いたら電話してくれ。)
44. 鳴りつづけている ①サツキカラ デンワガ ナリツツケテル ヨ。(さっきから電話が鳴りつ放しだよ。)/②ナリツツケテル(鳴り続けている。)
45. (先生は今何を)しているか ①(低学年ダラ<低学年なら>)センセー ナニヤッテン ノー。(先生、何をやっているの?)/②(今の子は先生に近く次のように言う。)センセー ナニ シテル ノ。イッテモ イー カイ。(先生、何をしているの?行ってもいいかい?)
46. 好きだ スキ。(好きだ。)(「スキダ」のように「ダ」を付けない。「キライダ」も「キライ」である。)
47. 見られているのも ミラレテルノモ
48. (今、運動会が)ある ①(他人に関わる運動会で、しかも近距離で行われてい

- るとき) アー、キョーワ アソコデ ウンドーカイ ヤッテル ヨ。(ああ、今日はあそこで運動会をやっているよ。) / ②(自分に直接関わる運動会するとき) アッ キョーワ ウンドーカイダ ヨ。(あっ、今日は運動会だよ。)
49. (降らなくて) よかったよ ヨカッタ ネ。
50. (先生がこっちへ) 来つつある ①(自分に関わりのある受け持ちの先生に対する場合であれば) イラッシャル / ②(校下の先生とかで、自分に関わりの薄い先生であれば) アー センサー クル ヨ。(ああ、先生が来るよ。) / ③(嫌いな先生だらく先生なら) センコー クル ソ。(先公が来るぞ。) / ④(嫌いな先生には) キタ、キタ、キタ。(来た来た来た。) / ⑤もっと嫌いな先生には) アノ センサー クルト コマルカラ ミンナ ソト イッテヨ。(あの先生が来ると困るから皆、外へ行ってよ。)
51. (犬がこっちへ) 来つつある クル
52. 似ている ニテイル
53. (一週間も前から遊びに) きている アソビニ キテイル
54. (昔から) 苦勞していない <熟考後> ①アスコノ ムスコワ クローガ タリンカラ ナー。(あそこの息子は苦勞が足りないからね。) / ②ボンボンデ ソダッテルシ・・・。(凡々が育っているし・・・。) / ③クロー シトランカラ ナー。(苦勞していないからねえ。)
55. (今はあまり) 苦勞しないでいる ①ムカシト チガッテ ラク シテル ネ。(昔と違って楽をしているね。) / ②ユーフクン ナッタ。(裕福になった) / ③ラクン ナッタ(楽になった) <否定形の「～しないでいる」を求め得なかった。>
56. ～は売っているが、～は売っていない ～ウツテルガ ～ウツテナイ
57. (昔からタバコを) 売っている ウツテル
58. (今、大売出しで衣料品を) 売っている ①ウツテル ヨ。 / ②ウリダシチュー(売出し中)
59. (もう三回) 来ている キテイル (来ていることの説明と確認の両方に使う。)
60. (いつも) 来ている キテル
61. (昔はいつも) 来ていた ヨク キテタ ヨネー。イマワ コナイケド。(よく来ていたよね。今は来ないけど。)
62. (前に一度) 行っている <熟考後> イツテイル
63. 先にいっておいしてほしい ①フタリ サキニ イツテター。(二人で先に行っていて。) / ②イツテテ ヨネ。アトカラ イクカラ。(行っていてよね。後から行くから。)
64. 待っていないさい マツテ イナサイ
65. (外に) 待たせてあるよ <熟考後> ①ソトニ オイトイテル ヨ。(稀) / ②

- ソトニ マタセテ アル ヨ。(外に待たせてあるよ。)(多)
66. 食べておいておくれ ①サキニ タベテテ ネ。/②サキニ タベテテ。
67. (昔と) 違っている <熟考後>ムカシト チガウ。
68. (昔は今のと) 違っていた ムカシワ アジガ コカッタ。(昔は味が濃かった。)
> <~チガッテイタとは言わずに、濃いか薄いかを言い分けるとのことである。>
69. (毎日梅干しを) 食べている タベテ イマス
70. (毎朝) している シテル
71. 気をつけていて (~した) ①キオ ツケテ イルンダケド~ /②キオ ツケ
テ イタケド~
72. 行ったまま イッタキリ カエッテ コナイ。(行ったまま帰って来ない。)
73. ~しながら ①~シナガラ/②(「~シガテラ」<提示>は言わない。)
74. ~の途中で~する ①イクツイデニ~/②(「イクシナニ」<提示>は父がよく
使った。)
75. ~の途中で~した イク トチューデ~
76. ~の途中で止めて~した トチューデ フセテ デカケル。(途中で伏せて出掛
ける。)
77. ~したばかりだ <熟考後>ヨンダ トコダ。
78. 無くなっている (老人ダラ<老人なら>) ミエナク ナッタ。<当該質問文ど
おりの語形は求め難い。>
79. 無くなるぞ ナクナル ヨ。
80. 掛けておいた帽子 カケテ オイタ
81. 並んだ本 ①ナラバテ アル ホン(図書館や友達の家の本など、他人の本の場
合)/②(①のと同じ場合に) ナランデ イル ホンワ ムズカシスギル。
82. 並べた本 ナラバタ
83. ~しておこうか ヨンドコー。(読んでおこう。)
84. やってあるか ①シユクダイオ ヤッタ カ。(宿題をやったか。)/②モー
シユクダイ オワッタ カ。(もう宿題は終わったか。)
85. 壊している マタ コワシテル
86. 壊れている ①マタ コワシタ。/②マタ コワシテ イル。(①の方をよく使
う。)
87. 壊されている (受け身形で「壊されている」の言い方をしない。)
88. のけてある ヨケテアル
89. 書き終わった ①ヤット オワッタ。(やっと書き終わった。)/②ヤット カ
イタ。(やっと書いた。)(①の方が②よりもよく使う。)
90. 書いてしまいなさい ①カキナサイ ②サンマイダカラ ハヤク カキナサイ。

③ハヤク カケ。

91. 書いてしまう ①マタ マチガツテ カイチャツタ。(また間違っ
て書いてしまった。) / ②マタ カイタ。(また書いた。) <「～してしま
う」という言い方は、「～タ」で代用されることが多いようである。>
92. 書いてみた カイテ ミタ
93. (孫は今)入院している ①ビョーインニ ニューイン シテル ノ。(病
院に入院しているの。) / ②ビョーインニ ハイッテル ノ。(病院に入
っているの。)
94. (弟も今)入院しているそうだ ビョーインニ ハイッテルラジ
ー。(病院に入っているらしい。)
95. (きっと)よくなるよ ①ワカイカラ スグ ナオル ヨ。(若いから
すぐ直るよ。) / ②(「ヨクナツテイク」「ヨクナツテクル」<提示>
は使わない。)
96. (だんだん)よくなるよ <無回答> (95の場合と同じで、当該事
項の言い方に慣じめないとのことであった。)
97. 歳とるとね ①トシ トルト ネー。(歳をとるとねえ。)(多) / ②トシ
オカサネルト ネー。(歳を重ねるとねえ。)/ ③(「トツテイクト」
「トツテクルト」の言い方をしない。)
98. なおらなくなるよ <熟考後> ①ナオリニクク ナル。(直りにく
くなる。)/ ②ジカンガ カカル。(時間がかかる。)/ ③(「～テ
イク」「～テクル」<提示>の言い方はしない。)/ ④ナオリガ
オソイ。(直りが遅い。)
99. (1) (犬が)怪我したので ケガオ シタノデ
(2) (こどもが)怪我したので ケガオ シタノデ
(3) (お父さんが)怪我したので ケガオ シタノデ
(4) (雨が)降ってきたので アメガ フツテ キタカラ
100. (1) 降りつつある B (文章語ならともかくも、口ことばでは
使わない。)
(2) 貯金が増えつつある A (収入が元もと僅かだから増えない
もの。)
(3) 貯金を増やしつつある B (僅かに、徐々に、ということ。)

III. 総括

- (1) 広島町方言のアスペクトは、総じて、共通語のアスペクトよりも簡略である。西日本各地の方言のような複雑な様相は、全く見られない。
- (2) 広島町方言のアスペクトは、中国地方の広島県の方言アスペクトとは、著しく異なる。明治27年に移住した103名の広島県人による広島県方言アスペクトは、現在の三世、四世の話者には、全く残っていない。
- (3) 「～ていく」「～てくる」、「～ていた」「～ておく」、「～するところだ」などのように、細微に動作を言い分けることには、特に意を尽くさないようである。

(4) 使役と受け身の対応が、語形の上で明確には区別されていない。また、自動と他動との対応も、語形の上で必ずしも詳かではない。

(5) 「～しないている」のように、否定を肯定で言い結ぶ言い方をしない。「～していない」のように、肯定を否定で言い結ぶ言い方がある。しかし、「否定・肯定」が文中の条件節の中であれば、話は別であろう。

(付言)

1994年1月25日が締め切りであった。しかし、全国方言のアスペクトを鳥瞰する企画で、北海道方言アスペクトの報告が欠けているのは、バランスを欠くことだった。そこで、最後のお一人の論文が10月初旬となったので、私も初めて北海道広島町へ出向き、本稿のための調査を行った。人を替えて、何度も調査を繰り返し、アスペクトの共時的体系を帰納するところまでは、とても到り着いていない。不十分な記述に留まった。

(えばた よしお 広島大学教育学部)